

- ◆ 北陸財務局及び当局が運営する「北陸地域連携プラットフォーム」では、地方創生支援・地域貢献の一環として、また、若年層の提案や意見を今後の議論に活かしていくことを目的として、平成28年度から、金沢大学附属高等学校の生徒(1年生)が約半年間かけて実施している「地域課題研究※」を支援。
- ◆ 当局職員が地域課題研究に対するアドバイザーを務めたほか、生徒の研究成果に対して審査・批評等を実施。また、最優秀チームを決定する発表会において、北陸地域連携プラットフォームのコアメンバー(北陸地域の有識者)3名が審査員を務めるなどの支援を行った。
- ◆ この取組は、当局のホームページで北陸地域連携プラットフォームの活動を知った同校の教諭から協力依頼を受けて始まったものであり、当局が26年1月以降、継続的に北陸地域連携プラットフォームを開催し、その内容を地域に発信してきた一つの成果。

1. 成果事例の概要等

(1) 約半年間にわたり「地域課題研究※」の様々な場面において支援

※ 地域課題研究とは、基層文化や地域的特性を知り、現在または将来における地域を認識し、地元企業・地方公共団体等の協力を得ながら、地域理解を深めるとともに、地域の抱える課題と解決案を地方公共団体や企業・研究機関などに提案する活動のこと。

- 北陸財務局幹部が北陸地域経済の現状や人口減少問題等について講義(平成28年5月)



- グループ討議において当局若手職員がアドバイス(28年5月)



- 30チーム(1チーム4名)による研究成果の発表会において、当局若手職員9名が審査・批評(28年9～10月)



- クラス代表3チームの中から最優秀チームを決める発表会において、北陸地域連携プラットフォームのコアメンバー(北陸地域の有識者)3名が審査員を務めた(28年11月)



☆ 最優秀チームのテーマ

加賀地域観光巡りツアーを企画して、金沢の観光客を石川県全体のリピーターにしよう！～マダムを虜にする加賀～(1年B組10班)

(2) 成果発表の機会等を提供

- 「北陸地域創生フォーラム」(一般公開)において、最優秀チームにプレゼンテーションの機会を提供(28年11月29日)
- 地方公共団体や金融機関等の地方創生の取組の参考としていただくため、金沢大学附属高等学校がとりまとめた研究成果(レポート)を地域に配付し、生徒の発想や提案等をPR(29年1～3月)

2. これまでの取組の成果等

○ 北陸地域の若者の地方創生に関する当事者意識の涵養

～生徒の感想～

- 地域の様々な課題について深く考えることができた。今回の活動を通して、論理的に考えること、多角的に捉えることの大切さと難しさがわかった。

～先生の感想～

- 北陸財務局の方に指導・講評をいただき、生徒たちにとって非常に刺激的な時間となった。外部との結び付きが非常に強まり、生徒たちにとって今まで以上に刺激のある課題研究となった。

○ 地方創生の実現に向けて重要な若者の提案・意見を情報発信

- 当局のネットワークを通じて、若者の地方創生に関する提案・意見を地域の主体である地方公共団体や金融機関などに情報発信。

○ 地域と若者を繋ぐ橋渡しに

- 今回のフォーラムを契機として、同校の課題研究の内容に興味を示した金融機関からの要望を受け、当局が同校に橋渡し。金融機関と地方公共団体等が現在進めている事業に同校生徒の提案を反映させようと生徒に協力を求める展開に。

3. 今後の課題と北陸財務局の対応

＜今後の課題＞

地方創生の実現に向けて重要な若者の意見をキャッチアップするとともに、有益な情報を地域に発信することが必要。

＜今後の北陸財務局の対応＞

若年層との関係を強化していくとともに、今回の取組において聞くことができた若者の地方創生に関する提案・意見等を、北陸地域連携プラットフォームにおける今後の議論などにも活用し、積極的に情報発信を行っていく。